

# 江戸時代からの挑戦状

## — 300年前の数学「和算」で遊ぼう —

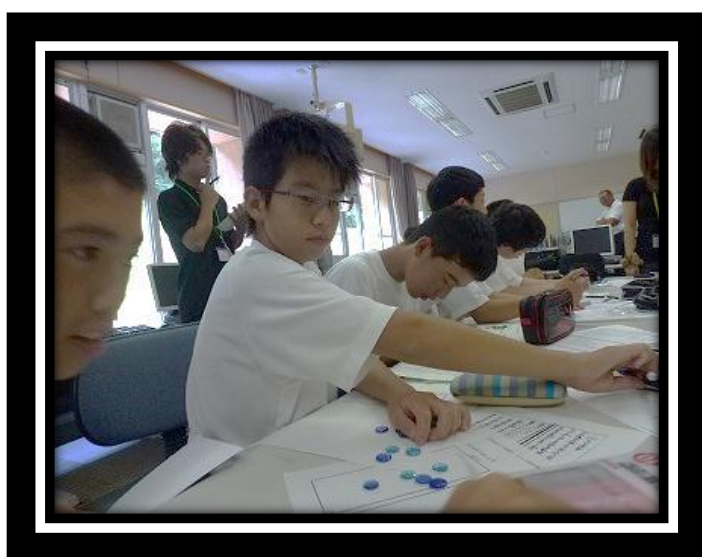
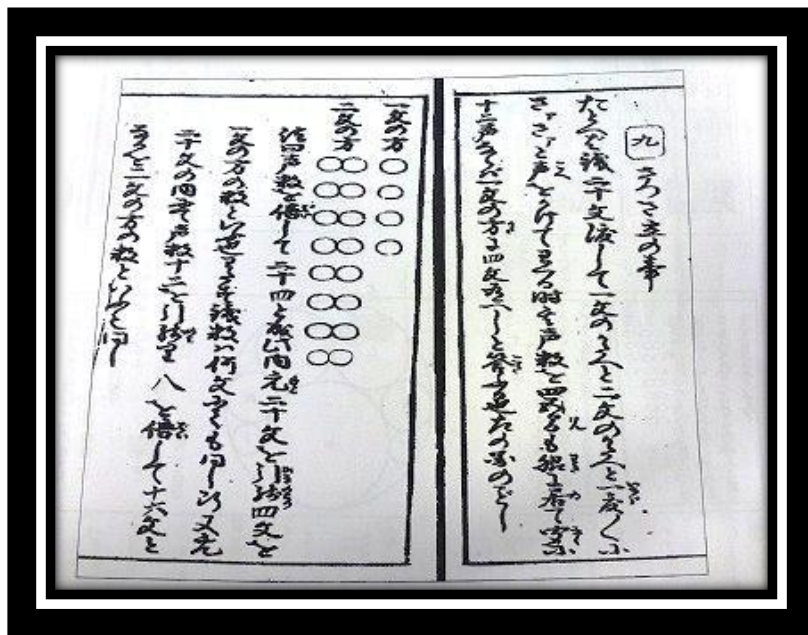
日にち 27日(月) 28日(火) 日時 14:25~15:55

大学院生 安藤さん

「和算」は江戸時代の日本人が学んでいた数学のことです。昔の日本人はみんな和算が大好きだったようです。

今回は「さっさ立て」というものを行いました。ルールは2人でするゲームです。おはじきの数は全部で20枚です。おはじきを動かす人と、おはじきを動かす回数を当てる人に分かれます。おはじきを動かす人は動かす時に、「さあ！」と言います。右には1枚ずつ、左には2枚ずつ置いていきます。そして、当てる側の人には、「さあ！」の数を聞いて、右と左のおはじきの数を当てるゲームです。

例えば、「さあ！」の数が13回だったら右におはじきが○枚、左に○枚というように当てるゲームです。(答えは 右に6枚、左に14枚です。)



これは、連立方程式と言い、2年生で学習します。

最初はどややって当てているのかな〜と気になっていましたが、式で表し計算してみると、「そうかそうか。」と分かってきました。このゲームを考えた昔の人はすごいなあと思いました。

数学は難しいものだと思っていましたが、やってみると、とても楽しくて和算は面白いと感じました。僕も和算が好きになりました。

2012.10.03 ふるさと発信情報局 中川洸志